

表面処理

ARC MX1の性能を長期に保つには正しい表面処理を行うことが重要です。具体的な条件は使用状態の厳しさ、期待される寿命、初期の下地状態により異なります。

最適な前処理は、汚れが全て除去され金属表面が75から125ミクロンに粗面仕上げされた状態です。通常、ホワイト・メタル (Sa 3/SSPC SP5) **あるいは** ニア・ホワイト・メタル (Sa 2^{1/2}/SSPC SP10)の清浄度まで初期洗浄と脱脂、研磨プラストを行った後、残留物を除去します。

混合および塗布

混合と塗布を容易にするために、製品温度を20°Cから25°Cに保ってください。各キットには、正しい混合率に従った、プライマーキットARC MXP (A剤とB剤)、ARC MX1 (A剤、B剤、C剤) が入っています。更に小分けする場合は、個々の正しい混合比率に従ってください。

MXP: 混合および塗布

プライマーB剤をプライマーA剤に加えよく混ぜます。堅いブラシまたはヘラを使って、処理された表面に、湿潤膜厚 (WFT) が250から375ミクロンになるまで、プライマーを均一に塗布します。キットには通常必要以上の量が入っています。必要な量だけ使用してください。

混合率

	混合率	重量比
ARC MXP	A : B	4.8 : 1

作業時間 - 単位:分

	10°C	16°C	25°C	32°C	本チャートはARC MXPの混合開始後の実際の作業時間を示しています。
ARC MXP プライマー	40分	30分	20分	15分	

MXPの上塗りには以下のMXPオーバーコート適用期間で示された時間内に行わなければなりません。注:ARC MXPはARC MX1塗布時に粘着性がなければなりません。

MXP オーバーコート適用期間 - 単位:時間

	10°C	16°C	25°C	32°C	本チャートは垂直表面でARC MX1をARC MXPにオーバーコートする際の適用期間を定義しています。水平表面の場合、ARC MXPプライマー塗布後直ちにARC MX1を塗布して構いません。
オーバーコート開始	3時間	1.5時間	0.8時間	0.5時間	
オーバーコート終了	4.5時間	3時間	1.5時間	1時間	

ARC MX1: 混合および塗布

キットを全部使用するには、B剤をA剤に加えよく混ぜます。混合が終了したらC剤の約3分の1を輸送用の大きな混合バケツに移してください。A剤とB剤の混合物をC剤の入ったバケツに加えてください。よく混ぜてから残りのC剤を加えてください。材料が完全に混合され、均一になり乾燥部分がなくなるまで、混合を続けてください。キットを一部使用するには、以下に示す混合率に従ってください。直ちに塗布してください。

	混合率	重量比
ARC MX1	A : B : C	3.3 : 1 : 22.6

作業時間 - 単位:分

	10°C	16°C	25°C	32°C	本チャートはARC MX1の混合開始後の実際の作業時間を示しています。
ARC MX1	50分	40分	30分	20分	

ARC MX1はこてあるいは付属のアプリーケーターで厚さ最低6 ミリメートルで塗布することができます。最低適用温度は10°Cです。付属のプラスチック製用具あるいはこてを使用してください。先に塗布されたMXPに押付け、接着を確実にするために表面を完全に湿らせてください。一旦塗布されたら様々な方法を用いて滑らかにすることができます。

ARC MX1は、軽荷重の状態に達する前に、ARCビニルエステルコーティングを除く、ARCエポキシ材料で上塗りすることができます。下に説明する「軽荷重」点まで硬化したら、トップコートを行う前に、表面を粗面仕上げし、埃その他の汚染物を除去してください。硬化が「軽荷重」点まで進まないうちは、表面処理は汚染がない限り必要ありません。必要に応じて、ARC MX1を回転研削工具で粉砕したり、多結晶ダイヤモンド工具で機械加工することができます。

塗布面積

WFT	ユニットサイズ	塗布面積
6 mm	6 kg	0.37 m ²
	20 kg	1.23 m ²

硬化時間

	10°C	16°C	25°C	32°C	注:強制硬化させると全機械耐性に速く到達します。強制硬化は、半硬化に達した後70°Cで4時間加熱します。
半硬化	5時間	3時間	2時間	1時間	
軽荷重	9時間	7時間	3.5時間	2.5時間	
全機械耐性	48時間	36時間	20時間	16時間	
全薬品耐性	108時間	80時間	40時間	33時間	

洗浄

市販の溶剤 (アセトン、キシレン、アルコール、メチルエチルケトン) で使用後の工具を直ちに洗浄してください。一旦硬化すると削り取らなければなりません。

安全性

使用前に必ず適切な安全性データシート (SDS) あるいは貴地の安全性シートを参照してください。標準の作業時間や作業開始に関する手順があれば、それに従ってください。

貯蔵期間 (未開封容器): 3年 [乾燥した、湿気のない屋内施設で10°Cから32°Cで貯蔵した場合]